北陸石仏の会々報

第60号

令和2年4月20日発行

編集と発行

北陸石仏の会

（日本石仏協会北陸支部）

代表　平井一雄

〒939-1315
富山県砺波市太田
1770　尾田武雄方
電話　0763-32-2772

振替　00740-2-11974
（年会費 3000円）

ホームページ
www1.tst.ne.jp/odatakeo/

頭部に鵤・〓の文字がある墓標

平井　一雄

鵤は烏八旧（ウハッキュウ）と呼ばれ、全国的に報告例がある。〓は読み方は謎で卍字と同じだとされる。私は仮に「歹ムム（ガツムム）」としている。この字は諸橋大漢和辞典や康熙字典にもなく、土井卓治著『石塔の民俗』に初めて紹介されている。Ⅳ石塔の色代わり・「読めない謎のマンジ」にキリシタン墓碑に関連して、島原の乱の死者供養碑に〓の頭字がある石塔二基を紹介されている。読めない「西域の萬字」なりということがわかり、その後の知見で『翻訳名義集』にその説明があることがわかったという。

漢文でよみづらいので要約すると、如来の胸に吉祥海雲と名付けられる形のものがあることから、このしるしが書きつけられることになり、同じく吉祥を示す卍字とおなじものであるとされた。西域地方で使われる萬字という説はどのような根拠からでたものかわからないという。

私は富山県内三か所で〓の頭字を持つ墓標を確認し、岐阜県高山市一之宮で〓を頭字に持つ萬霊塔を確認したので紹介する。

注「頭字」

江戸時代の個人墓に刻まれる戒名などの刻字は位牌の書式にならい、「頭字・院号・道号・戒名・位号・下置字」が一般的である。頭字は頭書・墓印ともいう。

頭字は真言宗は梵字「ア」、浄土宗・天台宗」は梵字「キリーク」が多い。曹洞宗などの禅宗は卍・同會・帰元・帰一・帰真・〇が多い。浄土真宗は院号・位号がなく「法名　釋　■■」が多い。

鵤　烏八旧　鵤 鵤 〓 〓

この文字をバラして「烏八旧」、これをそのまま「ウハッキュウ」とよぶのが慣例となっている。とはいえ，鳥と烏の違いだけではなく，「旧」に変えて「臼」や「日一」,「目」としたり，それぞれの部分を縦や横に配列したりと、変化形の文字も少なくない.

室町時代末期から江戸中期頃の古い墓標に見られ、全国的に分布する。特徴として、曹洞宗や浄土宗系の墓標に多い傾向があるという。

その意味については烏を表すという説や、日月（金烏と玉兎）、優婆塞、阿吽の吽などの諸説がある。

特殊な陀羅尼にその出典を求める説や、鳥葬に関わるもの、つまり「帰空」の意と解す説などが有力なようだ。同時代の墓石に烏八旧に代えて帰空や帰一などと書くものも多い。

西光寺　富山県富山市月岡地区中布目

曹洞宗布金山西光寺は旧名を大安寺と称した歴史の古いお寺です。

本寺は、明治二（一八六八）年の合寺令によって一時廃寺となりましたが、大山町の有峰にあった西光寺の名前を受け継いで再興されました。

このお寺の由緒書によれば、文明年間（一四六九～一四八六年）に最勝寺（富山市蜷川）四世貫翁和尚の高弟であった雪天和尚によって創建されました。

江戸時代には、代々の加賀藩主前田家から厚い信仰を受け、二代利長三代利常から寺領を拝領し、利長からの署名のある古文書も所蔵されています。

また、このお寺の山門は二層形式の古い建築で、蟇股と呼ばれる軒を支える箇所には前田家の家紋である梅鉢の紋か彫り込まれています。

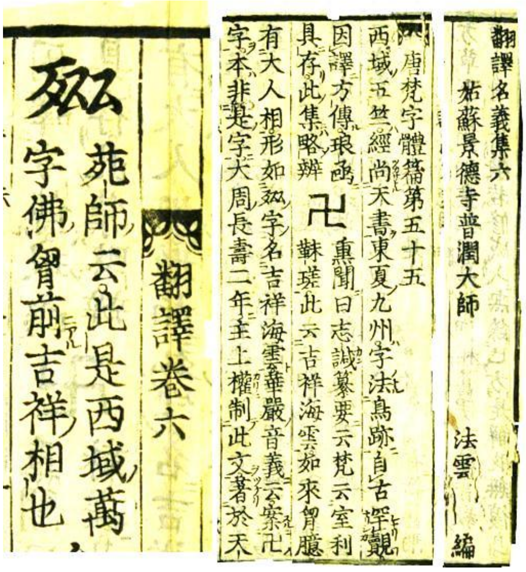
西光寺の墓地は大安寺時代の古い墓標・五輪塔・板碑・一石五輪塔などが多数あります。

玉線貫道信士

西光寺墓地

西光寺墓地

翻訳名義集六
唐梵字體篇第五十五（抄）


翻譯名義集六
姑蘇景德寺普潤大師　法雲　編
唐梵字體篇第五十五
西域五竺經尚天書東夏九州字法鳥跡自古浮覼因譯方傳琅函具存此集略辨
卍　熏聞曰志誠纂要云梵云室利靺瑳此云吉祥海雲如來胸臆有大人相形如卍字名吉祥海雲華嚴音義云案卍字本非是字大周長壽二年主上權制此文著於天
翻譯卷六
卍　苑師云此是西域萬字佛胸前吉祥相也

西布谷　渡辺家墓標

富山県富山市八尾町西布谷の渡辺家は渡辺綱の末裔と言われ当地の土豪で、江戸時代には富山藩の十村役を務めた。

御伽草子の「酒呑童子」といえば大江山に住む酒呑童子という鬼を源頼光らが退治する物語として広く知られている。この中で頼光の四天王として活躍するのが、坂田金時ら四天王で筆頭は渡辺綱である。この渡辺綱の子孫が中世の越中にきて重要な役割を果たしていた。

渡辺綱の息子は八尾町薄島に入部、以後その子孫は千石村、八尾布谷と、いずれも山間部の山に近いところに入る。布谷も千石も鉱物資源に関連する地で、薄島は神通川水運の川湊という要衝である。そもそも酒呑童子のいた大江山も銅、銀、鉄などの鉱脈に恵まれ、鉱脈の開発、鍛冶が行われていた場所であり、酒呑童子の物語は、大陸から渡ってきた帰化人たちが高度な金属精錬技術により富を蓄積しているのに目を付けた都の勢力が武力で富を収奪したことを象徴しているのではないかとの説もある。渡辺綱は摂津国（大阪市）に本拠を置き、水運にかかわる武士団であった渡辺党の祖とされる。平安時代後期に水運にたけた摂津渡辺党の流れが越中の知行国主の徳大寺に起用されて越中に入部したという。山間資源や神通川の水運を管理した。鎌倉期以降は井田川上流部の野積保に本拠を定め、山間部の国人として長く勢力を保ち、江戸時代には在郷町八尾の成立にも一役買ったことが八尾町史に見える。

元禄十四年
本立院宗心　霊座
十一月十九日

渡辺家墓標

元禄八年
皈空 直應浄心信男　■位
七月二日

元禄十三年
○ 明季貞白大姉　霊位
二月十一日

富山市婦中町新屋　吉田家墓地

文政七甲申
天外龍門上座品位
三月初五冥

文化十三年
方屋貞■大姉
子七月二日

吉田家墓標

円寂　庭道樹　上座

帰眞　了岩宗呑　和尚

○　了岩宗呑　和尚

大幢寺

大幢寺は岐阜県高山市一之宮町にある曹洞宗の寺院。山号は神護山。三木氏所縁の寺であり、飛騨三十三観音霊場九番札所である。

天文八年(一五三九)に、雲龍寺（高山市)雲龍寺十世、伝奥禅同により開かれる。その後、三木国綱が行基作と伝承のある十一面観音菩薩を寺に安置して本尊とした。天正十三年(一五八五)に三沢の乱で兵火に遭い焼失。十一面観音菩薩は観退きと呼ばれる地まで自ら退いたという伝説がある。また、乱で落命した三木国綱を古桜のそばに葬り、五輪塔と社を建てられた。その後金森長近により再興されている。

寺宝として円空作の韋駄天像を所蔵するほか、雲龍寺開山の了堂真覚が座禅をしたと伝わる座禅石、大原騒動犠牲者供養万霊塔が境内に所在する。

大幢寺萬霊塔

大原騒動犠牲者の霊を弔うために、大幢寺第九世徹山和尚が幕府や代官所のきびしい監視の中で勇気を出して「萬霊塔」として建立した。

塔の正面及び向って左側面には主だった犠牲者の法名が三十四名刻まれている。

徹山和尚は文化四年（一八〇七）九月十三日寂であり約二百年前の建立と推定される。

萬霊塔

大幢寺　萬霊塔

血の涙を流す法蔵菩薩（阿弥陀如来）

尾田　武雄

富山県東部に五劫思惟阿弥陀如来（法蔵菩薩）石仏が数多く点在していることは、拙著『富山の石仏たち』では、県内で十八体の石仏、四体の木像、二体の絵像を報告した。その後石川県、福井県、愛知県そして広島県、山口県などでは木造などが寺院に、ひっそりと安置されていることを知った。それらの地域は三河門徒、安芸門徒と称される真宗の篤いところでもある。ドキュメンタリー映画作家で教信坊住職青原さとし氏のご教示により、広島市西区の浄土真宗本願寺派法輝山光西寺に、五劫思惟阿弥陀如来（法蔵菩薩）あることを知った。早速光西寺住職長上弘雅氏にお手紙をお出しした。ご返事は「全くこの法蔵菩薩の五劫思惟像に関しては、謂れなどを、先代達から全く聞かされておりません」とのことで「大切に思って安置し続けてきたいと思った次第です。」とのことであった。その後「法蔵菩薩五劫思惟像絵像」の写真を拝受した。

　この絵像は上部に縦書きで「五劫思惟御像」とあり、右膝を立て両手を添え、その手の上に首を傾げている。左足は無造作に岩座に座している。やせ細ってあばら骨が浮き出ている下半身には布を巻き、頭には肉髻が見え、円光もある。明らかに如来のお姿である。ただ細く小さい目から、赤い血の涙が流れ、岩座にその涙が残されている。この絵像は藤木元子同行に寄贈によるものであるが、いつの時代か謂れは全く不明とされている。仏像は仏教で説かれるお像であるが、多くの場合穏やかで優しく、神々しいお姿が多く見受けられる。このような裸で岩座に坐し、やせ細って目から血を流すお姿のお像に接して驚きであった。

　近世において、真宗教学の振興とともに節談説教は興隆していた。真宗における節談説法の雄であり、幾多の説教者により数限りなく口演されてきた『親鸞聖人御一代記』（『祖師聖人御一代記』）がある。その中に「三本柿ノ事」中にこれは越中新川郡三日市での逸話を述べたものであるが文中に「法蔵因位ノ其ノ昔シ大悲深重ノ願ノオコシ五劫ニ是ヲ思惟シテ永劫ニ是ヲ修行シテ我等衆生ヲ助ケン為ニ血ノ御涙タノカタマリガ此ノ南ムアミタ仏ノ名号ヲ御成就ナサレ親カコヘシクハ本願ノ信セヨ子カ可愛値ヘタクバ我レタノメ必ス必ス助ケスクハズ」とあり、法蔵菩薩が我らを救わん為に血の涙を流されたとある。そして南無阿弥陀仏の名号を成就され、親が恋しくは本願を信じよ、子に可愛くあたえれば我らの為に必ず助けてくださるという意である。

光西寺住職長上氏がお手紙で「私は、法蔵菩薩の像から　親の姿を連想しますね。不幸者の子を案ずる親の風情を法蔵菩薩の五劫思惟像に感じさせられます。私たちが法話させて頂く事　聴聞させて頂くことなどは仏さまの全てお育てであり、全て法蔵菩薩の働き以外に何ものでもないのでしょうか。こうして我が寺に法蔵菩薩の五劫思惟像や法蔵菩薩の五劫思惟絵像がありながらそんなに気にもしていなかったわけですが、この度のご縁で味わさせられたというべきでしょうか。」とあり、五劫思惟阿弥陀如来（法蔵菩薩）の心が、今も息づいている事に感動している。

　参考文献　関山和夫編『大乗仏典〈中国・日本編〉「第30巻 説教集」』（中央公論社・昭和六十二年九月刊）

石川県羽咋市の半跏地蔵

滝本　やすし

石川県羽咋市の南部に、中世の石造半跏地蔵を四体確認している。前号で紹介した旧志雄町(現在の宝達志水町北部)に隣接した地域である。旧志雄町のものと同様、由来等不明のものがほとんどであるが、現状を報告したい。

①羽咋市福水町　藤の森

白山社の隣に藤の森と称される場所があり、中世の石造物が数多く集められている。その中に二体の石造半跏地蔵が見られる。石造物群の奥のほうに置かれている一体は、薮田石製で錫杖の一部や宝珠が欠落している。白山社には古い木造仏が御神体として祀られており、この半跏地蔵がもとの御神体だったとは考えづらい。高さ56 cm、幅37 cm。

②羽咋市福水町　藤の森

石造物群の手前のほうに置かれている一体は、砂岩製で光背の一部が欠落している。一般的によくみられる薮田石製のものと比べると小ぶりで、やや稚拙の感がある。高さ33 cm、幅23 cm。

③羽咋市上白瀬町　曹洞宗豊財院

豊財院山門前の地蔵堂内に納められている。薮田石製で宝珠が欠落しているが、他に大きな破損はみられない。もとは八幡社に祀られていたのであろうか。高さ49 cm、幅32 cm。

④羽咋市土橋町　共同墓地

共同墓地の地蔵堂内に納められている。薮田石製で剥落が激しい。もとは白山神社に祀られていたのであろうか。高さ31 cm、幅22 cm。

福水町　藤の森の２体

上白瀬町　曹洞宗豊財院地蔵堂

土橋町　共同墓地地蔵堂

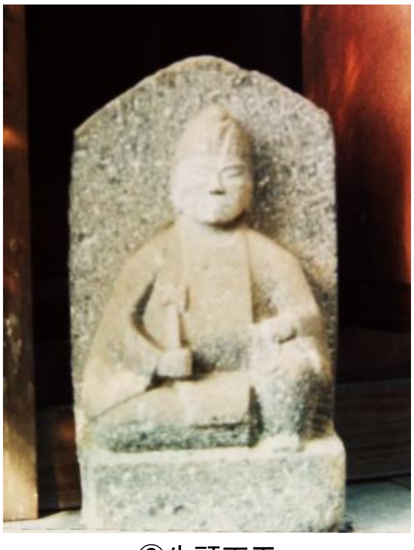
特集　疫病退散のご利益がある石仏

平井 一雄　尾田 武雄　滝本 やすし

新型コロナウィルスの感染拡大が続いている。感染の早期終息と感染者の完治を願って、疫病退散や病気平癒のご利益がある石仏を特集した。平井、尾田、滝本のこれまでの調査資料を緊急にまとめたものである。御神体のため所在地を明記しないものが一部ある。

①鍾馗　富山県富山市八木山の蔵本家
②牛頭天王　岐阜県高山市上宝町吉野の豊受神社境内津島神社
③「牛頭天王」　富山県富山市大場の神明社境内
④「祇園」　石川県津幡町倉見地内
⑤慈恵大師良源（元三大師）　福井県南越前町新道の殿城庵
⑥角大師（元三大師）　福井県南越前町新道の殿城庵
⑦「元三大師」　福井県鯖江市長泉寺町の天台宗中道院境内
⑧「清正公」　石川県七尾市小島町の日蓮宗實相寺門前
⑨「疫神社」　富山県富山市上野の大川寺参道
⑩河濯尊大権現（瀬織津姫）　石川県白山市三宮町地内
⑪少彦名命　富山県内の少彦名神社
⑫少彦名命　石川県内の少彦名神社
⑬薬師如来　石川県内の少彦名神社
⑭薬師如来　富山県砺波市中野地内
⑮阿弥陀三尊　富山県富山市坂本地内
⑯ころり不動明王　富山県砺波市三島町の曹洞宗瑞祥寺山門前
⑰無量力吼（金剛波羅密菩薩）　富山県南砺市松島のコレラ堂
⑱無量力吼（金剛波羅密菩薩）　富山県南砺市北川の路傍

①鍾馗と恵比須大黒



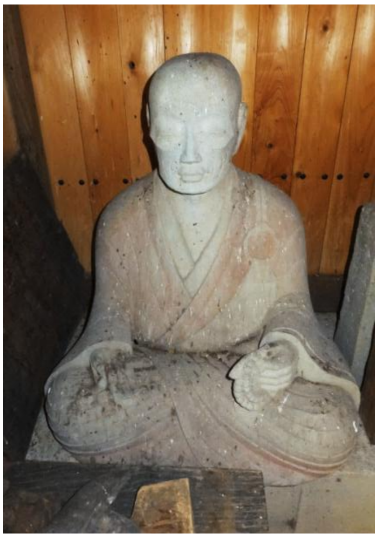
②牛頭天王

③「牛頭天王」

④「祇園」

⑦「元三大師」

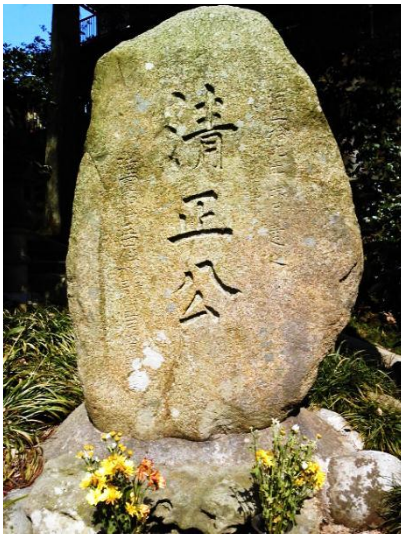
⑥角大師（元三大師）



⑤慈恵大師良源（元三大師）

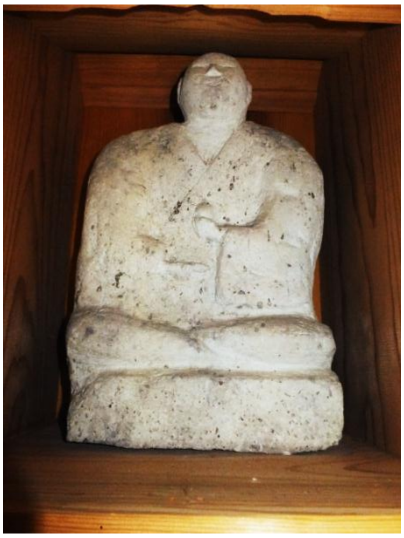
⑩河濯尊大権現（瀬織津姫）

⑨「疫神社」



⑧「清正公」

⑬薬師如来



⑫少彦名命

⑪少彦名命

⑯ころり不動明王

⑮阿弥陀三尊

⑭薬師如来

⑱無量力吼（金剛波羅密菩薩）

⑰無量力吼（金剛波羅密菩薩）

お知らせ

新型コロナウィルス感染拡大のため、５月下旬に開催を予定していた第６０回例会を延期します。
今秋には開催したいと考えていますが、今後の状況次第となります。
詳細は次号でお知らせいたします。
皆様といっしょに楽しい石仏めぐりができる日を心待ちしております。